

日本物理学会物理学史資料委員会ニュース

No. 5

編集・発行 日本物理学会物理学史資料委員会

2022 年 12 月 23日

一般社団法人 日本物理学会 物理学史資料委員会では、年3~4 回の委員会議において、主として日本国内の物理学史資料の保管・収集などに関して情報交換を行っています。『日本物理学会物理学史資料委員会ニュース』は、その情報の一部をウェブ上で紹介するために刊行されています。

正確な内容をお届けするよう心がけますが、同委員会の委員の報告をもとに速報性を重視した構成とするため、情報が十分でない可能性があります。詳細については、関連する機関等に別途ご確認いただけますようお願い申し上げます。

《目次》

- 『大学の物理教育』誌で「日本の物理教育 150 年」連載が始まりました
- 国立科学博物館にて「残して伝える！科学技術史・自然史資料が語る多様なモノガタリ」展が開催されました
- 理化学研究所が物理学史資料に関するクラウドファンディング 2 件を実施しました
- 「東北大学ギャラリーひすとりあ」がオープンしました
- オーラル・ヒストリー企画について
- 湯川秀樹の旧宅と遺品が京都大学に寄付されました
- 京都大学総合博物館にて特別展「創造と越境の 125 年」が開催されました
- エルザおよびアルバート・アインシュタインと日本人外交官一家との交流を物語る写真、および関連の展示（東京大学駒場博物館）
- 名古屋大学坂田記念史料室からの報告（名古屋大学坂田記念史料室の担当者交代、「History of Kobayashi-Maskawa」ウェブ公開）

（原稿受付順）

●『大学の物理教育』誌で「日本の物理教育 150 年」連載が始まりました

『大学の物理教育』誌で「日本の物理教育 150 年」連載が始まった。現在、以下の記事が掲載されている。

連載 日本の物理教育 150 年

並木雅俊「東京数学会社に至る変遷」28 (2022) 20-24

永平幸雄「教育実験機器の開発改良を誰が担ってきたか：旧制三高四高の物理演示実験機器から」28 (2022) 101 - 105

岡崎彰「戦後の初等中等教育の理科授業時数の推移」28 (2022) 129 - 133

(並木雅俊委員)

●国立科学博物館にて「残して伝える！科学技術史・自然史資料が語る多様なモノガタリ」展が開催されました

2022 (令和 4) 年 8 月 5 日 (金) から 9 月 4 日 (日) にかけて、国立科学博物館上野本館で企画展「残して伝える！科学技術史・自然史資料が語る多様なモノガタリ」が開催された。本展は、2016 (平成 28) 年度から 2020 (令和 2) 年度にかけて実施された国立科学博物館の総合研究「我が国における科学技術史資料の保存体制構築に向けた基礎的研究－現存資料の保存状況とその歴史的背景－」の成果報告の一環として開催されたものである。

小規模な展示ではあったが、日本の科学技術史に関わるさまざまな科学分野の歴史的資料が展示された。狭義の物理学の関連では、「初代カミオカンデ関連資料」として、カミオカンデで使用された光電子増倍管の実物や、1987 年に超新星ニュートリノを捉えたときのデータ出力紙のレプリカが展示された。なお、ここで紹介された「初代カミオカンデ関連資料」の概要については、『国立科学博物館研究報告 E 類 理工学』第 45 巻 (2022 年) 13-16 頁に報告が掲載されているので、興味のある方はご覧いただきたい。

《参考リンク》

企画展ウェブページ (国立科学博物館)

<https://www.kahaku.go.jp/event/2022/08preservation/>

(有賀暢迪委員)

●理化学研究所が物理学史資料に関するクラウドファンディング 2 件を実施しました

理化学研究所 (以下、理研) で物理学史資料に関わるクラウドファンディングが 2 件実施された。以下、プロジェクトのウェブサイトに記載の情報をもとに概要を紹介する。

[A] 「科学史を未来へ繋ぐ」資料修復・保存プロジェクト

<https://readyfor.jp/projects/riken>

理研に残されている各種資料の修復に必要な支援を募るものである。具体的な修復対象としては「仁科芳雄書簡ファイル 約 40 冊」「仁科芳雄研究室資料 約 20 箱」「理化学研究所彙報 日本語版 約 500 冊」などが挙げられた。

目標金額は 1 千万円に設定され、「支援総額が期日までに目標金額に届かなかった場合でも、目標金額分を自己負担するなどして、必ず上記の実施内容の通り実行」という形式で行われた。結果、284 人から総額 7,033,000 円の寄付が集まり、プロジェクトは成立した。

[B] 仁科芳雄の研究室を復元～科学する心を次の世代へ～

<https://readyfor.jp/projects/nishina-riken>

理研の仁科加速器科学研究センターが実施したもので、仁科記念財団から譲り受けた調度品や資料を活用して「仁科芳雄記念室」を製作する資金の一部を募るものである。具体的には、「仁科博士が使用していた机や椅子、黒板（レプリカ）、吊るし電灯などの調度品を用いて、仁科芳雄博士の研究室を再現」とされている。

目標金額は 1 千万円に設定され、「支援総額が期日までに目標金額に届かなかった場合でも、目標金額分を自己負担するなどして、必ず上記の実施内容の通り実行」という形式で行われた。結果、264 人から目標金額を上回る総額 10,405,000 円の寄付が集まり、プロジェクトは成立した。

以上 2 件のプロジェクトは、物理学史資料に関するクラウドファンディングの試みとして注目される。結果を簡単に比較すると、[A]では 1 人による寄付の最高額が 30 万円（7 人）で、それに続く 10 万円を寄付したのが 8 人であったのに対し、[B]では 100 万円と 50 万円を寄付した人が 2 人ずついたほか、30 万円が 4 人、10 万円が 24 人となっている。総じて後者のほうが大口の寄付が多かったように見受けられる。

（有賀暢迪委員）

●「東北大学ギャラリーひすとリア」がオープンしました

東北大学片平キャンパスに「東北大学ギャラリーひすとリア」が旧東北帝国大学理学部生物学教室の建物内に開室した。「ひすとリア」は、市民や在校生、同窓生、来学者など多くの方に向けて東北大学の歴史、学術成果を紹介するとともに、キャンパスツアーなどイベントの拠点となるスペースである。展示室では東北大学の歴史や学術成果の紹介を行っている。開室時間中は自由に見学できる。

- ・開室時間：火曜日、木曜日 12 時～16 時（祝日を除く）
- ・見学科：無料

東北大学ギャラリーひすとりあ web サイト

<https://www.bureau.tohoku.ac.jp/somu/cca/index.html>

東北大学総合学術博物館ニュースレターNo. 66（紹介記事）

（注：ニュースレター4ページに記載の「大正3年（1914）」は「大正5年（1916）」に訂正）

http://www.museum.tohoku.ac.jp/pdf/press_info/news_letter/omnividens_no67.pdf



○片平まなびの館

東北大学ギャラリーひすとりあが入る建物は、旧東北帝国大学理学部生物学教室として登録有形文化財（建造物）に登録されている。この建物は大正13（1924）年に建てられた鉄筋コンクリート造建築である。ゼツェッション様式風の玄関回りや円形コーナー（写真）の美しさは建築、都市景観的に秀逸であり、プロポーションと細部装飾にバランスが取れた逸品であると評価されている。また、東北帝国大学初の鉄筋コンクリート造校舎として歴史的価値も有している。昭和44（1969）年の理学部の青葉山移転に伴い、その後は金属材料研究所が使用した。平成2（1990）年からは放送大学宮城学習センターとして使用されており、令和4（2022）年から東北大学ギャラリーが設置された。

○展示内容

- ・展示室1 足元に眠る歴史
- ・展示室2 モノが語る東北大学

東北大学キャンパスの地中には、先史時代まで遡る遙かなる軌跡が眠っている。キャンパスの発掘調査で明らかとなった遺物や文化財を展示・解説している。

- ・展示室3 東北大学の登録有形文化財

東北大学は登録有形文化財の建造物群やその図面資料について全国有数の保有規模を誇

っている。学都仙台を象徴する建物や景観を展示・解説している。

・展示室 4 旧理学部生物学教室と植物園

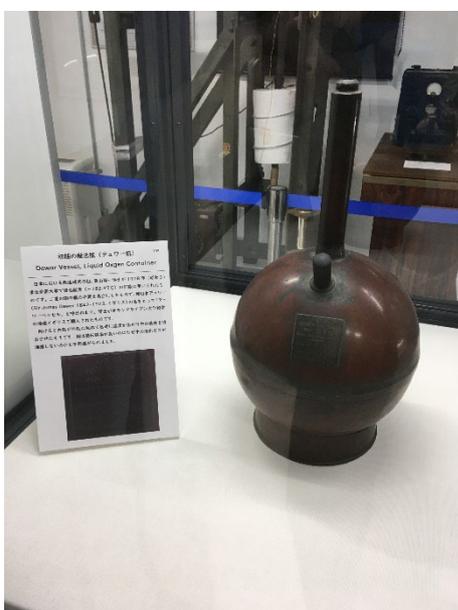
大正時代に創設された黎明期の理学部生物学教室に多大な影響を与えたハンス・モーリッシュ、東北大学植物園を紹介している。

・展示室 5 西澤潤一と東北大学

第 17 代総長を務めた西澤潤一の研究成果と生涯を紹介している。

・展示室 6 金研のあゆみー金属の密林の開拓者たちー

金属材料研究所の設立からの歴史や発明品のほか、第一回文化勲章を受章した初代所長本多光太郎、第 3 代所長村上武次郎、第 6 代所長増本量の業績や研究ノート、関係する実験装置などを展示・紹介している。



[展示室 6 の展示物例]

日本の低温科学研究の祖である青山新一が、欧州留学（1925-27 デンマーク、英、独）の帰りに購入して持ち帰った「液体酸素デュワー」（現物）。銅製の渋い色合いで、姿形や大きさは現在市販されている液体窒素デュワー（10 リットル）とそっくりである。容器の刻印が"LIQUID OXYGEN CONTAINER"となっていて液体酸素用である。球体の小さな突起は、真空引きした後に封じ切った部分。この構造も現在の液体窒素デュワーと酷似している。

（佐々木孝彦委員）

●オーラル・ヒストリー企画について

日本物理学会が 2027 年に創立 150 年（1877 年の東京数学会社創立から）を迎えるのを機に、物理学史資料委員会ではその記念企画を予めいくつか準備することとなった。

その一つの企画は、主に戦後の物理学の研究やそれを取り巻く様々な状況の中で、大きな業績を残された諸先達の先生方にインタビューを行い、それが一種の自叙伝的なものになるような形で動画や冊子として残しておこうというものである。これらを残すことによって、後に続く世代の研究者にとっても何かしら資することもあるうし、延いては今後の物理学・物理教育・物理学史の普及や啓発の一助になるものとする。また、この企画は広く学生や一般の会員をも対象としているので、先達の諸先生個人に関心のある方、あるいは先生方が進められてきた物理そのものに関心のある方にも資するものがあるとする。

現在、物理学史資料委員会内の「オーラル・ヒストリー実施作業班」（仮）として3人の担当者（所澤・高岩・林）が検討を進めている。希望としては広く物理学会の全分野の先生方を対象として行い、当面は物理学会の会長を務められた先生方を対象にインタビューを行うことを考えている。今年度（2022年）は予備的な作業として実施し、問題となる課題を抽出し、これから実りあるインタビューにしていく予定である。また、学会誌に掲載することも検討中である。

（林春雄委員）

●湯川秀樹の旧宅と遺品が京都大学に寄付されました

2021年8月に京都市左京区下鴨の湯川秀樹（1907-1981）の旧宅が京都大学に寄付された。旧宅の整備には建築家の安藤忠雄氏が従事する予定となっている。旧宅にあった湯川史料を含む遺品は、現在、京都大学に保管され、2022年に設置された「湯川秀樹旧宅整備に伴う資料調査管理委員会（仮称）」のもとで史料の分類等が進行中である。また、旧宅が寄付される以前に湯川記念館に寄贈された史料も、湯川記念館史料室委員会のもとで分類作業が進行中である。なお、2021年にリニューアルされた湯川記念室（旧所長室）の常設展示「湯川秀樹と読書—ノーベル賞物理学者の原点—」では若干の展示物を入れ替えが行われた。展示については以下のウェブサイトを参照。

常設展示「湯川秀樹と読書」の観覧予約案内：

<https://www.yukawa.kyoto-u.ac.jp/tenji>

（小長谷大介委員）

●京都大学総合博物館にて特別展「創造と越境の125年」が開催されました

京都大学総合博物館において「創造と越境の125年」と題した特別展が10月5日（水）から12月4日（日）まで開催された。本展は京都大学創立125周年記念事業の一つであり、大学創立時の理工・法・医・文の4分科大学の時代から受け継いだ資料をはじめとして、過去から現在に至る各種資料と教材・活動の記録を紹介している。物理学史の関連ではヘリオスタット（日光反射鏡）やダルソンバール検流計などの明治・大正期の物理教育機器や旧制第三高等学校物理学教室の物品管理台帳が展示された。また昭和初期に理学部の放射学・放射学講座で使用された自作の回折格子分光器（部分）も展示された。

（渡邊雅之委員）

●エルザおよびアルバート・アインシュタインと日本人外交官一家との交流を物語る写真、および関連の展示（東京大学駒場博物館）

来日（1922年11月～12月）に先立って、日本に向かう北野丸の上で、アインシュタイン夫妻は或る日本人外交官の一家と親しく交流していたが、この外交官のご子孫の方から、船

上での様子とその後の両者のやり取りを物語る写真についてご連絡をいただき、調査を進めた。写真は一部すでに公開されているものもあるが、正確な来歴等は、今回はじめて明らかになった。この間、ヘブライ大学アルバート・アインシュタイン資料館とも若干のやり取りを行った。結果は『日本物理学会誌』や『物理学史資料委員会ニュース』に発表する予定である。

また、関連する展示を、2023年3月後半から4月前半にかけて、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部駒場博物館において開催する予定である。詳細は、準備が整い次第、下記のサイトに発表する。

<http://museum.c.u-tokyo.ac.jp/index.html>

(岡本拓司委員)

●名古屋大学坂田記念史料室からの報告

○名古屋大学坂田記念史料室の担当者交代

2022年4月に、名古屋大学坂田記念史料室の担当者が、岡本祐幸（名大理）から棚橋誠治（名大理/KMI）に交代した。

PDF形式の資料目録については、以下の史料室 Web ページ

<https://www.eken.phys.nagoya-u.ac.jp/introduction/sakata/>

からダウンロード可能。資料閲覧等の要望は、これまでどおり、

sakatashiryou@eken.phys.nagoya-u.ac.jp に電子メール送付のこと。

○「History of Kobayashi-Maskawa」ウェブ公開

小林・益川理論提案 50 周年記念行事の一環として、名古屋大学素粒子宇宙起源研究所 (Kobayashi-Maskawa Institute, KMI) では、クライン・仁科公式の導出から、小林・益川理論を経て現代に至るまでの素粒子物理学の歴史を概観するパンフレット「History of Kobayashi-Maskawa」を作成しウェブ公開した。詳細は以下の URL を参照。

<https://www.kmi.nagoya-u.ac.jp/blog/2022/08/08/kmi-unfolded-2/>

(棚橋誠治委員)